

2021. 7. 7 <計4枚>

京都大学記者クラブ加盟社 各位

立命館大学広報課

文化遺産や歴史都市の防災について考える
「第 15 回 歴史都市防災シンポジウム」をオンライン（Zoom）で開催
2021 年 7 月 17 日（土）10:30～18:40

立命館大学歴史都市防災研究所(京都市北区・衣笠キャンパス、所長:大窪健之)は、文化遺産や歴史都市の防災をテーマとした「第 15 回歴史都市防災シンポジウム」を、7 月 17 日(土)に開催いたします。今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインで開催いたします。

文化遺産や歴史都市を自然災害や人災等から守ることについては、早急に解決すべき課題が多いのが現状です。歴史都市防災研究所は、文化遺産の宝庫とも言うべき京都・滋賀を拠点に、芸術と文化の保全と、それを支える環境とコミュニティを含む災害対策を一体として捉える「文化遺産防災学」の教育・研究を、文理の垣根を越えて行っています。

「歴史都市防災シンポジウム」は、同研究所の研究成果の発信と研究交流の場として、2007 年以来、毎年開催しています。第 15 回となる今回は、兵庫県立大学の室崎益輝氏による特別講演「歴史都市の災害復興について」に続き、3 つの会場に分かれて討議を行います。このテーマに関心をお持ちの方は、どなたでも参加できます。詳細は別紙をご参照ください。

記

日 時 : 2021 年 7 月 17 日(土) 10:30～18:40(予定)

会 場 : オンライン(Zoom)

内 容 : 特別講演、学術論文発表など

参加費 : 無料

※7 月 16 日(金)正午までに、事前登録が必要です。

事前登録(日)

<https://onl.tw/4NGaUQH>

事前登録(英)

<https://onl.tw/9thjqKf>

※詳細は、研究所 HP をご覧下さい。

<http://www.r-dmuch.jp/jp/project/symposium/program.html>

使用言語 : 日本語(一部、英語での発表、討議あり)

主 催 : 立命館大学歴史都市防災研究所

以上

●内容についてのお問い合わせ

立命館大学歴史都市防災研究所 TEL:075-467-8801 担当:秋好

●ご取材についてのお問い合わせ

立命館大学広報課 TEL:075-813-8300 担当:桜井

第15回歴史都市防災シンポジウム：2021年7月17日(土)

プログラム

時間	特別講演 (Webinar)		
10:30~12:00	「歴史都市の災害復興について」 室崎 益輝 氏 (兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科長)		
時間	Zoom A 会場 (Room1)	Zoom B 会場 (Room2)	Zoom C 会場 (Room3)
13:00~14:40	A1. 防災技術(1)	B1. 防災計画(1)	C1. 防災計画(4)
15:00~16:40	A2. 防災技術(2)	B2. 防災計画(2)	C2. 国際連携(1)
17:00~18:40	A3. 防災技術(3)	B3. 防災計画(3)	C3. 国際連携(2)

【A 会場】

A1. 防災技術(1) 13:00~14:40

座長：福山 智子

1. 固有周期 3 秒を目指した 1 層伝統構法木造建物の検討
2. 毎重裳階付き三重塔の構造特性に関する実験的研究 ～水平載荷位置・屋根荷重をパラメータとした静的水平載荷実験～
3. 伝統木造建物における柱脚の滑りを考慮した解析モデルの検討
4. 明治修理前後の當麻寺東塔の構造改変に関する考察
5. 宮大工の技術的暗黙知の多角的保存と可視化 –Human Computer Interaction 技術を用いた伝統技術の継承–

A2. 防災技術(2) 15:00~16:40

座長：藤本 将光

6. 乾燥収縮率および静弾性係数の違いが断面修復コンクリートにおけるひずみおよび応力発生に及ぼす影響
7. 壁土の圧縮強度の寸法効果
8. 曲げ変形を受ける断面修復コンクリートの補修範囲が早期劣化に及ぼす影響
9. 面格子壁を用いた土蔵の耐震補強工法に関する実験的研究
10. 炭素繊維を混和したセメントペーストの圧電特性に関する基礎的検討

A3. 防災技術(3) 17:00~18:40

座長：伊津野 和行

11. 含水状態や載荷条件がモルタルの圧電効果に及ぼす影響
12. 修正 I-D 法による斜面崩壊危険度予測の精度向上に向けた一連の降雨イベントの設定に関する検討
13. カーボンナノチューブのセメントペースト中への分散状況の定量評価に関する検討
14. 兵庫県豊岡市出石地区における流木を伴う洪水氾濫検討
15. 歴史的建造物の含水分布検知に向けたコンクリート用電気インピーダンストモグラフィ実現に関する基礎的研究

【B 会場】

- B1. 防災計画(1) 13:00～14:40 座長：青柳 憲昌
16. 別府市鉄輪の空き家活用による防災・減災の可能性に関する基礎的研究
17. 彦根銀座商店街における防災建築街区の現況とその活用の可能性
18. 街路をまたぐ燃え広がりに対する平入町家の延焼抑止性能評価と要因分析
19. 姫路城の周辺街路における天守・石垣・櫓の見え方の定量的分析 ―歴史的景観保全と復興事前準備に向けた基礎的研究―
20. 史跡等に所在する復元建造物における火災対策の現状と課題 ～未指定文化財を火災から守り伝えるために～
- B2. 防災計画(2) 15:00～16:40 座長：鐘ヶ江 秀彦
21. 震災時の延焼火災に備える水源確保と消火可能範囲に関する研究 ―伝統的木密地域を有する京都市上京区を対象として―
22. 出石旧城下町の歴史的災害による罹災範囲の復元的考察
23. 京都駅周辺地域を対象とした社寺の防災拠点活用に関する評価 ～広域災害時に不足する帰宅困難者への支援の補完を想定して～
24. 都市縮小時代での伝統的建造物群保存地区の社会的脆弱性と今後のコミュニティ防災に関する考察 ―豊岡市出石伝統的建造物群保存地区を事例として―
25. 感染症拡大状況下におけるオンライン防災訓練の有効性に関する評価 ～豊岡市出石重伝建地区を対象として～
- B3. 防災計画(3) 17:00～18:40 座長：矢野 桂司
26. 小学校・中学校・高等学校の防災教育における地域連携の現状と課題 ―千葉県を事例として―
27. 地域コミュニティに内在する防災と文化遺産保全の隔たり ―都市縮小段階をむかえた京都市を事例に―
28. The Social Reduction of Risk: History, Tangible, and Intangible Heritage in Minamisanriku, Japan
29. 文化遺産防災マニュアルの改訂に向けた一考察 ～都道府県・政令指定都市が発行した文化財を対象とする災害対策マニュアルの運用事例調査を通して～

【C 会場】

- C1. 防災計画(4) 13:00～14:40 座長：村中 亮夫
30. 歴史都市金沢市での立体駐車場を活用した洪水時避難の有効性評価 ～感染症対策を考慮した車両による垂直避難の可能性～
31. 木造密集市街地における避難シミュレーションを用いた路地の安全性評価法に関する研究
32. 歴史都市における道路整備の時期と道路構造による交通事故多発状況の比較 ―京都府と滋賀県を対象として―
33. 観光スポットにおける訪日観光客に対する地震防災対策の枠組み ―多数の訪日観光客が訪問する清水寺を事例とした基礎研究―
34. 消費者余剰の推定による観光資源としての京都市内の文化遺産の価値の考察
- C2. 国際連携(1) 15:00～16:40 座長：大窪 健之
35. 中央アジア・ザラフシャン川流域における 1960 年代以降の遺跡環境の変化 ―CORONA 衛星写

真と Google Earth の判読からー

36. 世界遺産樂山大仏の洪水被害と防災対策の研究
37. Study on Typhoon Damage and Renovation of Cultural Relic Buildings in China –Taking Honglincuo as an Example
38. アユタヤ Wat Krasai 仏塔の保全に関する一考察
39. Research on Disaster Damage of Immovable Cultural Relics in China in Flood Season of 2020

C3. 国際連携(2) 17:00～18:40

座長： 豊田 祐輔

40. 常時微動計測を用いたイラン・聖タデウス教会の振動特性評価
41. 世界文化遺産パタン地区での行政と地域による防災対策の連携に関する研究
42. Sustainable Geodesign of the Urban Cultural Heritage of Alexandria, Egypt Vision 2030: Homogeneity of Authenticity and Modernization
43. 2015 年ゴルカ地震後の公的な災害対応体制と自主的避難所の運営 ネパールの歴史都市パタンにおける地域資源を活かした災害対応マネジメントに関する研究
44. Study on Adaptive Disaster Prevention Strategy of Tibetan Traditional Village –A Case Study of Shuzheng Village in Jiuzhaigou Valley, World Natural Heritage Site–